

USD / JPY 米ドル円 月次レポート

前月振り返りと2026年10月の相場展望

発行日

October 1, 2026

対象期間

9月実績 / 10月展望

通貨ペア

USD / JPY

発行頻度

Monthly

9月末レート（終値）

157.409

-1.46%（9月月間騰落率）

9月高値

160.387

9月安値

152.884

FED金利

3.75-4.00%

BOJ金利

1.25%

今月のハイライト

9月は159.74円からスタートし、月末にかけて円高が進み157.41円で引け、月間-1.46%となった。日米ともに利上げするという異例の展開となった

FOMCは9/15-16に政策金利を3.75%-4.00%へ0.25%引き上げ（賛成12対反対0）。2023年の利上げ以来となる利上げで、ドットプロットは年内追加利上げを示唆

日銀は9/17-18に政策金利を1.00%から1.25%へ引き上げ（賛成7対反対2）。3カ月ぶりの利上げで、利上げペースの加速と受け止められたとみられる

日米双方が利上げする中、日銀の利上げ間隔の短縮が意識されたことなどを背景に円高が優勢となった。月中安値は152.88円と一時大幅に下落する場面もあった

10月 基本シナリオ レンジ

153 - 161円

Fed・日銀とも次回は10月下旬に会合。追加利上げの有無が焦点（10/27-28にFOMC、10/29-30に日銀会合）

日米政策金利差

最大2.75pp

Fed上限4.00% - BOJ1.25% = 計算上の単純比較で最大2.75pp。前月と同水準

始値

159.741

9月最初の取引日

高値

160.387

月中最高値

安値

152.884

月中最安値

月間騰落

-1.46%

-2.332円

9月の相場動向

9月のドル円は**159.74円**でスタートした。9/15-16のFOMCで政策金利が3.75%→4.00%へ引き上げられたことを受け、米ドルに買いが入る場面もあった。しかし9/17-18の日銀会合で政策金利が1.25%へ引き上げられると、円高が加速し月中安値**152.88円**まで下落する場面があった。

月末にかけてはやや値を戻し、**157.41円**で引け、**月間-1.46%**となった。FOMCと日銀がともに利上げするという異例の展開となる中で、日銀の利上げがより強い円買い材料として意識されたとみられ、計算上の金利差（Fed上限4.00%－BOJ1.25%）は最大2.75ppとなり、前月と同水準した。

主要イベントの影響

us FOMC 9月15～16日 利上げ

全会一致（賛成12対反対0）で3.75%→4.00%へ0.25%利上げ。2023年の利上げ以来となる利上げ

SEP（ドットプロット）で2026年末の政策金利中央値は4.125%と示され、現在の誘導目標レンジの中央値（3.875%）との比較で年内あと1回（25bp）の追加利上げを示唆したと受け止められた

Warsh議長はインフレが依然高い水準にあると指摘し、物価安定に向けた姿勢を示したとされる

JP 日銀 9月17～18日 利上げ

政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を1.00%から1.25%へ引き上げ（賛成7対反対2）。3カ月ぶりの利上げで、利上げペースが加速した形

反対した2名の委員は現時点での利上げには時期尚早との見方を示したと報じられた。植田総裁は会見で今後も機動的な判断を継続する考えを示した

利上げ後も金融環境はなお緩和的と位置づけられている。次回会合は10/29-30を予定（展望レポート公表回）

9月の総括

9月はFed（+25bp）と日銀（+25bp）がともに利上げする異例の展開となった。Fedの利上げは2023年以来初となる一方、日銀の利上げは3カ月ぶりで利上げペース加速として意識された。計算上の日米金利差はFed上限4.00%とBOJ1.25%の差で最大2.75ppとなり、前月と同水準。月間-1.46%と円高に振れた。10月以降の追加利上げの有無が引き続き焦点となる。

10月の注目ポイント

10月は**Fed（次回10/28）と日銀（次回10月下旬）の会合が相次ぐ**。Fedは9月のドットプロットで年内にさらに1回の利上げ余地を示しており、米インフレ指標の動向が注目される。日銀は3カ月間隔での利上げを実施したが、植田総裁は今後も機動的な判断を継続する考えを示しており、次の追加利上げ時期が市場の焦点となる。中東情勢に伴うエネルギー価格の動向や地政学的リスクも相場を動かす材料となりうる。

シナリオ別レンジ予測

 強気	25%	米CPI上振れ・Fedが追加利上げ姿勢を強め、金利差主導でドル反発	158 – 163円
 基本	50%	Fed・日銀ともに市場予想の範囲内。指標・会合にらみのレンジ推移	153 – 161円
 弱気	25%	日銀が早期追加利上げを示唆、または米指標が軟調でドル安	149 – 156円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
日銀の10月追加利上げ観測	 中	 円高	植田総裁が機動的判断を示しており、追加利上げ観測が強まれば円買いが優勢となりやすい
Fedの追加利上げ（10/28）	 中	 円安	ドットプロットでは年内の追加利上げ余地が示されており、利上げなら金利差拡大でドル高要因となりうる
米インフレ指標の動向	 中	 円安	CPI等が上振れすれば10月FOMCでの利上げ観測が強まりドル高圧力
中東情勢・エネルギー価格	 中	 円高	地政学リスクの高まりでリスク回避局面では円買いが強まりやすい

10月の見通し

基本シナリオは**153～161円のレンジ**とみている。日米の計算上の金利差（最大2.75pp）は引き続きドルに有利な水準にあるが、日銀の利上げペースが加速するかどうか円相場の方向性を見極める上での重要な材料となる可能性がある。10月下旬のFOMC・日銀会合がともに注目点となる月といえる。

用語解説

Fed / FOMC

米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。9/15-16会合でFF金利を3.75%～4.00%に引き上げ（2023年以來初）。次回10/28。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。9/17-18会合で政策金利を1.25%へ引き上げ（賛成7対反対2）。利上げベースの加速と受け止められたとみられる。今回は10/29-30（展望レポート公表回）。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）で高金利通貨を運用し金利差収益を狙う取引。リスク回避時の一斉解消は円高要因となりやすい。

SEP / ドットプロット

FOMCが四半期ごとに公表する経済見通し（Summary of Economic Projections）。9月版で2026年末の政策金利中央値は4.125%と示された。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する基準金利。Fed上限4.00%とBOJ1.25%の差は計算上の単純比較で最大2.75pp（為替の方向を保証するものではない）。

ジャクソンホール講演

毎年8月にカンザスシティ連銀主催で開かれる経済シンポジウム。Warsh議長は8/28に追加引き締めの可能性を排除しない姿勢を示していた。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。